

短期予報解説資料 2026年10月23日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

① 発達した低気圧が遠ざかり、日本海では寒気移流が終了して筋状雲も縮小。その西側のリッジに対応する優勢な高気圧の中心が日本海にあって東に移動。低気圧との間は気圧の傾きが大きく、強い風が残っている所がある。前線との間でも風がやや強く、広い範囲で高波。西～東日本太平洋側では台風によるうねりが加わっている。

② 大型で非常に強い台風第30号が、上層の太平洋高気圧の気圧の峰の西端に近づき減速して北西進。暴風域内の先島諸島では猛烈なしけ。台風周辺では相当温位345K以上の暖湿気が厚く分布し、大気の状態が非常に不安定。らせん状の雲バ

ンドや前線に連なる北側の収束域で、線状降水帯級に近い3時間雨量。日本の南にのびる前線沿いでも相当温位345Kが解析されるが暖湿気層が薄く、概ね東経130度線の東西で対流雲の発達に差がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 23日は1項①の高気圧に覆われて北～東日本を中心に晴れる所が多いが、高気圧の周辺部となる北日本、東～西日本太平洋側ではやや強い風や強い風が残り、うねりを伴って波が高い。その後は2項③④の要因で強風、高波が広い範囲で続く。25日にかけて全国的に、強風、うねりを伴う高波に注意。

② 23～24日は、台風第30号が強い勢力で先島諸島に最接近し、その後東シナ海を北上する。沖縄地方では、猛烈な風が吹き、猛烈なしけ、1項②の発達した対流雲がかかり非常に激しい雨が降り大雨となる。奄美地方では25日にかけて、大しけ。沖縄地方では、24日にかけて暴風、うねりを伴う高波、土砂災害に、23日は高潮に厳重に警戒。奄美地方では24日にかけて、うねりを伴う高波に警戒。南西諸島と西日本では24日にかけて、落雷、突風、竜巻などの激しい突風に注意。

③ 日本の南にのびる前線は、500hPa5820m付近のトラフに伴って24日にかけて西日本を北上、降水域が東日本に広がる。前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴って非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。その後25日にかけて、北日本を気圧の谷が通過した後は寒気移流の範囲が拡大して、前線は25日夜にかけて、九州北岸～近畿中部～東日本南岸まで南下する。

④ 台風第30号は、大きく加速することなく衰弱しながら進み、25日には九州の西に接近。26日には前線上の温帯低気圧に変わる。接近時の台風の勢力に応じて、九州北部・南部では強風、高波に注意・警戒。また、前線に向かう下層暖湿気が強まり、西～東日本では雷を伴って非常に激しい雨が降り大雨が続く所がある。上述の要因と合わせて、西日本では26日頃にかけて、東日本では25～26日頃は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。落雷、突風にも注意。1項②の厚い下層暖湿気の影響が続く九州北部では、土砂災害や大雨の警報級の可能性[高]。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時から24時間): 沖縄 250、四国 200、九州南部・北部 150、東海 100mm。②波浪(明日まで): 沖縄 12、奄美 6、九州南部・北部 4、広範囲で 3m。③高潮(明日まで): 沖縄は高潮危険警報級。 **5. 全般気象解説情報発表の有無** 「台風第30号」予定。



主要じょう乱解説図